

発 生 生 物 学

斎藤 哲一郎

発生生物学研究領域は，1998年4月の独立専攻・高次機能系の設置に伴い，発生医学講座の一研究室として発足した。古関明彦教授が初代教授に就任し，ノックアウトマウスを用いてポリコム遺伝子群などの構造と機能の解析を精力的に進め，哺乳類発生生物学の礎を築き，2004年に理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センターの免疫器官形成研究グループディレクターとして転出した。2005年3月には，京都大学再生医科学研究所から斎藤哲一郎が教授として着任し，5月に大阪大学から川内大輔助手，7月に米国 Dana-Farber Cancer Institute から室山優子助手が加わった（両名とも2007年4月より助教となる）。室山助教は大脳皮質の神経幹細胞を維持するための新しい必須因子 Nepro を発

見し，2008年12月からはテニユアトラックシステムの特任講師に昇進した。川内助教は，小脳の主要な神経細胞であるプルキンエ細胞と顆粒細胞の分化を制御する遺伝子カスケードを初めて明らかにした後，2009年4月より米国 St Jude Children's Research Hospital の研究員として転出した。2009年7月からは，米国 Sloan-Kettering Institute から佐藤達也助教が着任し，小脳ネットワークの形成機構を研究している。神経幹細胞を維持する機構と神経細胞の個性を決定する機構を主要な研究テーマとし，神経系の再生医療を実現するための確固たる基盤を作ることを目指している。

（さいとう てついちろう）